#### ジュール加熱(通電加熱)

交流を印加する電極を左右に一個づつ設置し、電極間に挟んだ円柱形の食品を加熱調理するケースをイメージしたアプリ(固体熱伝導 + 対流熱伝達 + 電流の解析)です。加熱時における食品内部の温度の変化を考察します。

詳しい解析の手順や内容は、書籍「ことはじめ 加熱調理や食品加工における伝熱解析 -数値解析アプリでできる食品物理の可視化-」(近代科学社)、7.2節でも解説しています。

Joule\_heating\_V60.pdf(説明) Joule\_heating\_V60.exe

# 【アプリファイル名】 Joule\_heating\_V60.exe

### 【概要】

- ・左右に設置した電極間に<mark>交流を通電</mark>し、電極間に挟んだ<mark>円柱形の食品をジュール(通電)加熱</mark>するケースをイメージ したアプリです。
- ・円柱形の食品の姿勢と中心座標は水平で固定されています。
- ・電流による<mark>通電加熱</mark>を行う際の食品の固体熱伝導 + 対流熱伝達を伴う非定常熱伝導解析</mark>を行います。
- ・食品の密度、定圧比熱、熱伝導係数、電気導電率を変更することで、該当する食品のジュール加熱を計算します。
- ・食品の温度分布、電位分布、電流密度ベクトル、食品中心の温度の時刻歴、 食品の電極間軸方向での電位分布と電気導電率分布を表示できます。
- ・電極の表面は断熱です。<mark>電極は固体熱伝導の非定常解析</mark>で温度を算出しています。 電極と食品の接触面は連続です。

## 【このアプリの特徴/このアプリで解析できること】

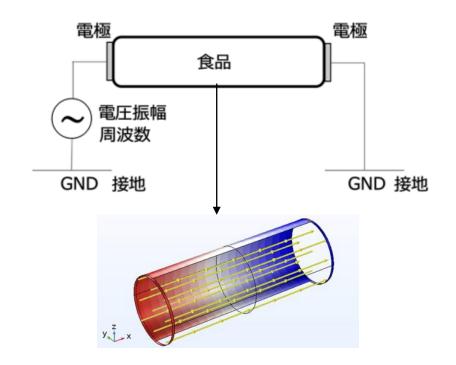
- ・電極電圧の振幅値と周波数を入力できます。交流周波数の上限は30kHz(ジュール加熱と呼べる範囲)です。
- ・食品は水分(空間的時間的に一定)があるものとし、**食品の密度、定圧比熱、熱伝導率はいずれも水分質量分率と温度の関数として入力できます**。関数は温度と水分質量分率の一次関数です。
- ・食品の電気導電率は温度の一次関数として入力できます。
- ・食品の長さと直径を入力できます。食品の長さや太さによる加熱への影響を調べることができます。
- ・食品の側面は熱伝達係数および雰囲気温度を入力できます。

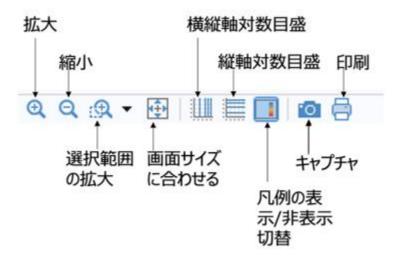
#### 【モデルによる計算内容】

- ・右図に示す円柱状の3次元モデルを計算します。
- ・食品は円柱形を仮定しており、長さと直径で入力できます。 食品の長さ=電極間距離、食品の直径=電極直径です。
- ・電極は円形をしています。
- ・電位は正弦波としており、電極電圧振幅と周波数で与えることができます。電極で電圧振幅として与えます。
- ・電気導電率(導電率)を与えることで、ジュール発熱量を 計算します。
- ・食品表面(両端の電極面以外)に対流熱伝達係数(熱伝達係数)を入力します。

### 【アプリでよく使うボタン】

右図を参照。





アプリでよく使うボタンの位置と意味

## 【アプリ使用手順】

1)まず初めに実施することは「①入力」をデフォルト設定のままで、「③計算実行」を クリックします。すると「⑦実行状況」で計算の進捗がわかります。

このアプリでは温度と電流(電位、電界を含む)の計算が行われます。 「⑤温度結果」に横向きで並ぶ項目を順に試してみます。 「④電場の結果」に横向きで並ぶ項目目を順に試してみます。

2)続いて、例えば、食品の長さ、 電極電圧振幅や周波数を「①入 力」で変更後、「②形状表示」で食 品形状を確認し、「③計算実行」を します。 視野変更→マウス操作:左ドラッグ→回転、右ドラッグ→平行移動、中央ドラッグ→拡大縮小

